

アフタヌーンセミナー1

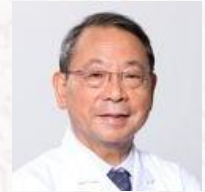
FotonaSmooth[®]レーザー及び 高強度テスラ磁気刺激“HITS[™]”療法による 女性泌尿器科治療最前線

日時 2021年7月17日(土) 13:40~14:40

場所 栃木県総合文化センター 第2会場

座長 太田 博明 先生

川崎医科大学 産婦人科学 2 特任教授
川崎医科大学 総合医療センター 産婦人科 特任部長



演者 「次世代型高強度テスラ磁気刺激デバイスStarFormer[®]
による下部尿路症状に対する治療経験」



宮内 聡秀 先生

医療法人圭成会 大分泌尿器科病院 理事長

演者 「SUI・GSMに対する非蒸散型Erbium-YAGレーザー
治療の実際」



新村 友季子 先生

医療法人真栄会 にいむら病院 理事長

<本セミナーでご紹介されているレーザー装置及び高強度テスラ磁気刺激装置情報サイト>

- ◆Fotona レーザー装置 (公式HP) www.fotona.com
- ◆インティマレーザー治療 (公式HP) www.fotona-smooth.com (日本語情報サイト) intimalaser.jp
- ◆高強度テスラ磁気刺激装置 (日本語情報サイト) www.facebook.com/StarformerIntimawave/

<最新医療情報・セミナーに関するお問合せ>

- TMKメディカル株式会社 <http://tmkmedi.jp> Tel. 052-253-7707 ✉ t-sato@tmkmedi.jp (担当:佐藤)
- ハルテック株式会社 <http://haltek.co.jp> Tel. 0422-27-2400 ✉ info@haltek.co.jp (担当:依田)

FotonaSmooth®レーザー及び高強度テスラ磁気刺激“HITS™”療法による 女性泌尿器科治療最前線

座長 太田 博明 先生 川崎医科大学 産婦人科学2 特任教授
川崎医科大学総合医療センター 産婦人科 特任部長

1. 次世代型高強度テスラ磁気刺激デバイスStarFormer®による 下部尿路症状に対する治療経験

演者 宮内 聡秀 先生 医療法人圭成会 大分泌尿器科病院 理事長

尿失禁は男女問わず生活のQOL (quality of life) を大きく損ねる病態である。

尿失禁は腹圧性、切迫性、混合性に分けられるが、初期治療としては行動療法として生活指導、理学療法、膀胱訓練や薬物療法がまず選択される。これらの治療に抵抗性を示す場合は神経変調法 (neuromodulation) である干渉定数波を含む電気刺激療法、磁気刺激療法、仙骨神経電気刺激法 (sacral nerve stimulation: SNS)、後脛骨神経刺激療法やレーザー治療や手術療法が検討される。

磁気刺激療法は本邦ではTMU-1100™が保険収載 (磁気による膀胱等刺激法: 70点) されており、腹圧性尿失禁における治療率、有効率はそれぞれ29-53%、86-94%、切迫性尿失禁ではそれぞれ20-25%、50-85%と報告されている。侵襲もなく安全性と有用性は高いと考えるが、十分に普及しているとはいえない。

当院は本年2月よりFOTONA社のStarFormer® PROを本邦初導入した。高強度のテスラ磁気刺激HITS™ (High Intensity Tesla magnetic Stimulation) デバイスであり、1回の治療は患者自身が耐えうる強さ迄パワーを上げつつ20~25分座るのみである。衣類の着脱は不要で尿失禁、便失禁、産後・術後の骨盤底筋リハビリテーション、骨盤臓器脱、腰背部痛やフレイル、筋力低下などに有用とされている。本機種は椅子の背面と座面に加え2つのハンドヘルド電磁パルスアプリアクターを搭載。骨盤底以外にも鍛えたい筋肉を選択的に鍛えることができる最新の装置である。2月現在に少数例であるが治療を開始、いずれも症状の改善を得ており、本学会にて経過を報告する。



宮内 聡秀

日本泌尿器科学会専門医

2003年 大分医科大学 (現大分大学) 医学部 卒業

九州大学医学部泌尿器科学教室入局 九州大学医学部付属病院勤務

2004年 独立行政法人別府医療センター入職 大分泌尿器科病院非常勤勤務

2005年 大分泌尿器科病院入職

2012年 大分泌尿器科病院副院長

2018年 医療法人圭成会理事長 大分泌尿器科病院院長就任

2020年 The Best Doctors in Japan 2020-2021

2. SUI・GSMに対する非蒸散型Erbium-YAGレーザー治療の実際

演者 新村 友季子 先生 医療法人真栄会 にいむら病院 理事長

女性下部尿路症状診療ガイドライン第2版によると、本邦では60歳以上の男女約78%がなんらかの下部尿路症状を有する。

頻尿、尿勢低下に次いで女性で多い症状は尿失禁である。ほとんどの下部尿路症状は加齢とともに頻度が増加し、日本は世界でも有数の超高齢社会である。SUIは全成人女性の25%に認められるとされ、尿失禁全体の49%と約半数を占めている。

女性泌尿器外来を開設している当院でも尿失禁を主訴とする患者さんは日常的である。当院での尿失禁治療は行動療法、薬物療法、手術療法 (スリング手術) を行ってきた。これまで尿失禁を主訴とする患者さんの全てに十分な治療効果が得られているかという、必ずしも十分ではないと実感している。患者満足度向上のためには低侵襲で治療効果の高い治療方法の登場が求められる。

当院では2018年秋からSUIに対する従来の3つの治療選択肢に加え、非蒸散型Erbium-YAGレーザー治療を自費診療で導入した。この4つ目の治療選択肢であるレーザー治療の概要と治療成績を報告する。このレーザー治療はSUIに留まらず、GSMに対しても有効な治療成績を得ている。

都会と比べて自費診療の導入が容易ではない九州最南端地方都市での自費診療導入であり症例数は限られるが、当院での治療成績について報告する。



新村 友季子

日本泌尿器科学会専門医 日本泌尿器科学会指導医

2005年 鹿児島大学医学部 卒業

2005年 鹿児島市医師会病院 臨床研修

2007年 医療法人真栄会 新村病院 入職

2014年 医療法人真栄会 新村病院 女性泌尿器科外来開設

2015年 医療法人真栄会 新村病院 理事長就任

2020年 医療法人真栄会 新村病院 骨盤底再建センター開設